

(報告) 平成 30 年度「愛知県立大学グローバル学術交流」特別授業 1
「〈生命〉の身体表現—世界で唯一無二の芸術創造の劇団態変 35 年間のエッセンス」

【講 師】金満里 氏 (劇団態変主宰・芸術監督)

【日 時】平成 30 年 11 月 30 日 (金) 14:30～16:00

【会 場】愛知県立大学長久手キャンパス K 棟 2 階小ホール

【参加者数】48 名 (受講生 18 名、愛知県立大学学生・教職員：18 名、一般：12 名)

金満里氏による講義及び学生との意見交換を行った。



(学生からの意見) (一部)

「健常者であることがあたり前」という認識があるのは間違いなく、心の中で区別してしまっている部分はあると思いました。一方で、障害者の方をどう扱っていいかわからないという意見も納得したし、お互いに触れてははいけないテリトリーのようなものがある気がしました。ただ、その壁を乗り越えていける程の人間関係を作り出していくことがまず大切なことであると感じました。

「健常者」がノーマルで、1つの基準になっているのだなあ、と感じた。

今日の講義を聞いて健常者は障害者を相対的に見て比べ、健常者が絶対的なものとする世の中だと知った。なぜ健常者は障害者とともに生き合えないのか分からなかった。障害者の人だけでなくハンディキャップを持った方との接し方や、その人の立場にたって考えることをしていけたらいいなと思う。

健常者とか障害があるとか関係なく一人の人間として生きていることを認識して一緒に生きることが自分がまず最初にできることなのでそうしたい。